大阪でも「図書館通い」

退職してから 4 年近くになるが、名古屋大学の中央図書館にほぼ毎日通った。何回かレポートしてきたが、自宅に沈滞せず、できるだけ研究の「場」を外に求めた。退職後は単調な生活になりがちであり、生活に「リズム」をつけて、閉じこもらず出歩くことに心がけてきた。

地下鉄本山駅から桃巌寺を見ながら、名大までの坂道を往復歩いた。名大中央図書館は蔵書も多く、静かで環境もよい。なかでも 4 階にある閲覧席がお気に入りであった。鍵のかかる「研究個室」は学生さんをはじめ名大関係者しか利用できないが、写真のような書庫の窓際にある研究スペースを利用した。片側が壁に囲まれた広々としたスペースである。電源もあり、パソコンも利用できるので、ここで多くの原稿を書いてきた。退職後はあまり本を買わず、書庫に並ぶ多くの本を読んだ。

名古屋から大阪に転居して心配なことも多かったが、研究の場もそのひとつだった。自宅に閉じこもるのは、できるだけ避けたいので、名古屋時代のように図書館を研究の場にすることにした。

いろいろ考えた末、すこし遠いが西長堀にある大阪市立中央図書館にした。ここは大阪に来たとき、よく利用していた馴染みの図書館である。写真下は 3 階にある「研究個室」。ドアーの向こうに大きな机があり、電源付きでパソコンを利用できる。天井はつつ抜けであり、コピーなど外の音がよく聞こえるが、図書館のなかの「居場所」、「個室」の雰囲気を味わえる。

この「研究個室」は全部で 4 席あり、3 席は予約席である。利用希望者は多く、予約がとれないこともある。その場合は、当日の朝一番に駆け足で行って先着順の席を確保する。朝 9 時 15 分からの開館時間から、4 時頃まで 7 時間近く図書館で過ごす。

昼は図書館地下にある「レストラン」で食べる。レストランといっても、大衆食堂といった感じだ。名大のときは「北部生協食堂」で学生さんらに囲まれて、昼食をとった。ここでは、私のような年配の人たちと一緒に、一抹の寂しさを感じながら、もくもくと食べる。昼飯より大切なのが、図書館の蔵書や資料だ。

名大は「中央図書館」なので、読みたい本が経済学部・法学部の図書館にあることが多かった。その点、こちらの図書館は読みたい本が開架に並んでいる。書庫からの借り出しも容易である。雑誌も多彩だ。とりわけ重宝しているのが、新聞である。全国紙はもちろん、地方紙が読みやすいように整理してある。すこし遅れるが、中日新聞や東京新聞、信濃毎日新聞などをチェックしている。レポートにも活用していきたい。

（2018 年 1 月 10 日）